

1 ペテロ 2

ローマで投獄の身だった使徒ペテロは、1章でキリスト教信仰の特質とも言うべき真理について語りました。人は試練や迫害に遭うと、これらの真理を忘れてしまうことがあります。そして、これはまさにその試練の時に書かれた書簡でした。先週もお話したとおり、ローマ帝国の皇帝ネロによるクリスチャン迫害の激化に伴い、ペテロ自身も十字架に逆さまに架けられて殉教します。短くまとめると、ペテロは次のように語ります。

イエス・キリストの血によってあなたは贖われました。

イエス・キリストにあってあなたは新しく造られた者となりました。

また、以前のようなむなしき生き方をしなくなりました。

そして今は、キリストとの新しいつながりがあります。そういうわけで、キリストにある新しい人生はこのように生きなさい。

まず、私たちは「互いに愛し合」わなければなりません。これは、真のクリスチャンの証となる特徴です。

イエスの命令は、一人になって瞑想することでも、イエスを信じない人を殺すことでもありません。また、私腹を肥やすことでもありません。

それは、互いに愛し合いなさい、というものです。

先週学んだ通りです。

1ペテロ 1:22 あなたがたは、真理に従うことによって、たましいを清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、互いに心から熱く愛し合いなさい。

ここ1節で、愛という概念が説明されています。

1ペテロ 2:1 ですから、あなたがたは、すべての悪意、すべてのごまかし、いろいろな偽善やねたみ、すべての悪口を捨てて、

各要点は人間関係に関連することです。

こういうことは、互いに愛するのを邪魔するだけではありません。

神のみことばを求める心をそいでしまうのです。

つづきを見てみましょう。

1ペテロ 2:2 生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。

信仰が成長するためには、神のみことばによって養われなければなりません。

しかし、ジャンクフードで満たされていると、純粋なみことばの乳を求めなくなってしまいます。

例えば、もしエイミーがとても美味しい夕食を作ってくれたとします。たとえば、彼女の得意料理のメキシコ料理のエンチラダとかです。でも、私は帰り道にマクドナルドに寄って、ビッグマックとLサイズポテトとバニラシェイクを食べたとします。そうしたら、エイミーが作ってくれたおいしいエンチラダを食べる食欲はもうないでしょう。そうすると、おいしいエンチラダを食べるチャンスを逃したただけではありません。きっとすごく怒られると思います。信仰も同じです。この世の「ジャンクフード」を食べ過ぎて、食欲がなくならないよう気をつけましょう。あなたのために備えられた神のみことばをしっかりといただきましょう。そのほうがずっと良いからです。

詩篇 34:8 【主】のすばらしさを味わい、これを見つめよ。幸いなことよ。彼に身を避ける者は。

幸いなことよ = なんて幸せ!

(あの赤ちゃん、うれしそうね!)

1ペテロ 2:3-8 あなたがたはすでに、主がいつくしみ深い方であることを味わっているのです。**4** 主のもとに來なさい。主は、人には捨てられたが、神の目には、選ばれた、尊い、生ける石です。**5** あなたがたも生ける石として、靈の家に築き上げられなさい。そして、聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる靈のいけにえをささげなさい。**6** なぜなら、聖書にこうあるからです。「見よ。わたしはシオンに、選ばれた石、尊い礎石を置く。彼に信頼する者は、決して失望させられることがない。」**7** したがって、より頼んでいるあなたがたには尊いものですが、より頼んでいない人々にとっては、「家を建てる者たちが捨てた石、それが礎の石となった」のであって、**8** 「つまりきの石、妨げの岩」なのです。彼らがつまずくのは、みことばに従わないからですが、またそうなるように定められていたのです。

使徒パウロは同じことをこのように語りました。

エペソ 2:19 こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。**20** あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。**21** この方において、組み合わされた建物の全体が成長し、主にある聖なる宮となるのであり、**22** このキリストにおいて、あなたがたもともに建てられ、御靈によって神の御住まいとなるのです。

礎の石（または土台石）という考え方は、石造建築物の土台に置かれる根石から来ています。これは大切な石です。その上に置かれるすべての石は、この石を基準に置かれるわけですから、礎が建物全体の位置を定めるのです。イエスは私たちの信仰の礎だとよく言われます。けれども多くの人があることを拒絶します。すると、不安定な信仰生活を送ることになり、人生をひっくり返すようなできごとが起きた時、そのような信仰は崩れてしまいます。イエスを信仰の礎であることを認める人は、靈の家に築き上げられる生ける石だと書かれています。

もう一度5節を見ましょう。

1ペテロ 2:5 あなたがたも生ける石として、靈の家に築き上げられなさい。そして、聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる靈のいけにえをささげなさい。

これはどういう意味でしょうか。それは、エルサレムの最初の神殿が建てられたことを指しています。その個所を見てみましょう。

1列王記 6:7 神殿は、建てる時、石切り場で完全に仕上げられた石で建てられたので、工事中、槌や、斧、その他、鉄の道具の音は、いっさい神殿の中では聞かれなかった。

これは、私たちの描写です。私たちは今、みんな石切り場にいるのです。人生の試練によって、打たれ、削られています。それは、私たちを完成させるプロセスです。私たちは生ける石、そして靈的なささげものだと書かれています。それは私たちが生命ある、生き生きとしたものであることを意味します。生きていますからこそ、お互いぶつかることもあり、気分を害することもあります。実際、心を傷つける人間関係もあります。なぜでしょう。それは、私たちに角やとげがあって、丸くされなければならないからです。誰にでも欠点があり、磨かれる必要があるのです。

ヤコブ 1:2-4 私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。**3** 信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。**4** その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。

神様は、私たちの人生にある状況や人を送られ、私たちを丸くするために用いられます。そのことによって、自分は神ではないということに気づかされます。そして、どんなに頑張っても自分の力ではどうしようもないこともある、と認めざるを得なくなります。それは、私たちが神の完全なみこころにすべてをゆだねるようになるためです。そうすれば、愛、喜び、平安、生きる目的や希望が与えられます。自分のやり方では、孤独、悲しみ、むなしさ、失望、絶望感だけしかありません。

1ペテロ 2:9-17 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。**10** あなたがたは、以前は神の民ではなかったのに、今は神の民であり、以前はあわれみを受けない者であったのに、今はあわれみを受けた者です。**11** 愛する者たちよ。あなたがたにお勧めします。旅人であり寄留者であるあなたがたは、たましいに戦いをいどむ肉の欲を遠ざけなさい。**12** 異邦人の中にあって、りっぱにふるまいなさい。そうすれば、彼らは、何かのことであなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのそのりっぱな行いを見て、おとずれの日に神をほめたたえるようになります。**13** 人の立てたすべての制度に、主のゆえに従いなさい。それが主権者である王であっても、**14** また、悪を行う者を罰し、善を行う者をほめるように王から遣わされた総督であっても、そうしなさい。**15** というのは、善を行って、愚かな人々の無知の口を封じることが、神のみこころだからです。**16** あなたがたは自由人として行動しなさい。その自由を、悪の口実に用いないで、神の奴隷として用いなさい。**17** すべての人を敬いなさい。兄弟たちを愛し、神を恐れ、王を尊びなさい。

ここでは、善良な市民であることが強調されています。また、得ることよりも与えることが重んじられています。

ヤコブは言います。

ヤコブ 4:1 何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いがあるのでしょうか。あなたがたのからだの中で戦う欲望が原因ではありませんか。

あなたがたのからだとは、私たちの世俗的な欲望、肉の欲のことです。肉の欲は常に利己的です。食べたい、飲みたい、楽しみたい、人気者になりたい、尊敬されたい、など、すべて自分を満足させるためのものです。それに対して、イエスはこのように言われました。

マタイ 20:26-28 あなたがたの間では、そうではありません。あなたがたの間で偉くなりたと思う者は、みなに仕える者になりなさい。**27** あなたがたの間で人の先に立ちたいと思う者は、あなたがたのしもべになりなさい。**28** 人の子が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためであるのと同じです。」

使徒パウロはこう言いました。

使徒の働き 20:35 このように労苦して弱い者を助けなければならないこと、また、主イエスご自身が、『受けるよりも与えるほうが幸いである』と言われたみことばを思い出すべきことを、私は、万事につけ、あなたがたに示して来たのです。」

私も人生の初めの27年間は、自分のためだけに生きてきました。しかし、長続きする平安や充実感は得られませんでした。キリストのことばを信じて、与えるということをするようになって初めて、消えてしまわない本当の祝福を得ることができました。しもべとして仕えるという考え方は、私たちの日常生活に適用されるべきものです。家庭で、職場で、学校で、コミュニティーで、どこでも何をしていてもこの考え方を当てはめるのです。

1ペテロ 2:18-20 しもべたちよ。尊敬の心を込めて主人に服従しなさい。善良で優しい主人に対してだけでなく、横暴な主人に対しても従いなさい。**19** 人がもし、不当な苦しみを受けながらも、神の前における良心のゆえに、悲しみをこらえるなら、それは喜ばれることです。**20** 罪を犯したために打ちたたかれて、それを耐え忍んだからといって、何の誉れになるでしょう。けれども、善を行っていて苦しみを受け、それを耐え忍ぶとしたら、それは、神に喜ばれることです。

これは、私たちの肉、私たちの願いとはまったく正反対です。

だからこそ、神の御霊に完全に頼らなければなりません。神を信じて信仰をもって耐える力を与えてもらう必要があるのです。

ヤコブ 4:10 主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高くしてくださいます。

それは、へりくだることを学ぶレッスンです。しかし、そこには、主があなたを高くしてくださるという約束が伴います。石切り場で完全にされる経験を用いて、主があなたを築き上げてくださいます。しかし、イエスは、ご自身が経験したことのないようなことを私たちに強いたりはいしません。

1ペテロ 2:21-23 あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。**22** キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。**23** ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、**正しくさばかれる方にお任せになりました。**

イエスは、「正しくさばかれる方にお任せになりました。」これは私たちの信仰の模範であり、秘訣です。なぜなら、思い出してください。イエスは、主を信じないユダヤ人によって偽証され、不当な裁きを受け、ローマ人によって十字架につけられました。しかし突き詰めて、全体像に目を向けるなら、イエスは、「正しくさばかれる方（神）にお任せになりました。」罪のないイエスが、全世界の罪のために十字架上で死ぬことは、神のみこころの極みだったのです。本当の意味でイエスを十字架につけたのは、イエスを信じないユダヤ人でも、ローマ人でもありません。私たちの罪が、カルバリの十字架にイエスをつけたのです。父なる神はみこころによって、御子を十字架につけるのを許されたのです。それは、私たちに罪の赦しを与えるためです。

1ペテロ 2:24 そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。

ペテロは、私たちのためにイエスがしてくださったことを語るにとどまりません。イエスが十字架にかかる700年も前に預言者イザヤがこのことを預言していたことも語ります。それは、イエスの十字架上の死が、神の最大のみこころとご計画の一部であることを証明します。イエスについての預言は360以上がすでに成就していますが、ここでペテロが示したいいくつかの預言を見てみましょう。

イザヤ 53:5 しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。

イザヤはここで私たちについても預言しています。

イザヤ 53:6 私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かってな道に向かって行った。しかし、**【主】**は、私たちのすべての咎を彼に負わせた。

ペテロはイザヤ書からの引用の締めくくりとして、私たちについて次のように語ります。

1ペテロ 2:25 あなたがたは、羊のようにさまよっていましたが、今は、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰ったのです。

ここに最大の問いがあります。あなたは今も、さまよい、自分の道を見つけようとしていますか。それとも、自分の疲れたたましいを主にゆだねて、神を信じようと思いませんか。イエスは言われました。

マタイ 11:28-29 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。**29** わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。

全能の神の御手に人生をゆだねるなら、みこころにかなわないことは私たちに起こり得ません。神を信頼すれば、そして、自分の思いを神に明け渡すなら、平安を得ます。自分の身に起こることは、すべて神がよいことのために用いてくださると知りつつ、過ごせるのです。

ローマ 8:28 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

先ほど読んだとおりです。最後に詩篇のみことばを読みましょう。

詩篇 34:8 【主】のすばらしさを味わい、これを見つめよ。幸いなことよ。彼に身を避ける者は。